

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の希望する進路実現に因るため、共通教科・科目を柱に単位制の趣旨をいかした教育課程編成を行う。</p> <p>②生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学習する態度を養うことをめざした授業改善に取り組む。</p>	<p>①授業の質と量を確保し、バランスのとれた教育活動を展開するため、教育課程を改定する。</p> <p>②生徒の主体的な学習を実現するための校内研究会や研修会を開催する。</p>	<p>①学校行事を精選するとともに、1単位当たりの授業時間を確保した教育課程を完成させ平成30年度から実施する。</p> <p>②全職員対象の授業改善研修会を開催するとともに、全教科で公開授業を行い、授業改善に向けた具体的工夫を導入する。</p>	<p>①授業の質と量を確保した教育課程を作成できたか。</p> <p>②全職員を対象とする研修会・公開授業を実施し、具体的工夫を導入できたか。</p>	<p>① 授業の質と量を確保するため、平成30年度から1日の日課を50分×6とした。</p> <p>② 授業改善の研修会、公開研究授業、教員同士の互見授業見学等を実施した。また、各教科で授業研究をおこなった。「生徒による授業評価」では、全校平均で80%以上の生徒からわかりやすい授業との評価を得た。</p>	<p>① 50分×6時間の授業により確かな学力の定着の向上が見られたか検証し、3年間の履修指導の改善を図る。</p> <p>② 授業改善の取組を次年度も継続する。100%の生徒からわかりやすい授業という評価を得るために、さらに授業改善を行う。家庭学習や授業時間外の質問や補習なども授業改善の一環と考え、総合的な観点から指導計画をたてる。</p>	<p>・1日6時間の授業となるが、生徒が自分の学習状況や進路希望に合わせた学習ができるシステムを維持してほしい。</p> <p>・生徒の学習意欲を高めるとともに、学習習慣をつけさせる学習指導を進めてほしい。</p>	<p>・教育課程を検討し、授業時間を50分としたが、単位制の特長を生かして生徒の希望に沿った科目選択ができるシステムを構築する必要がある。</p> <p>・生徒の思考力・判断力・表現力の向上とともに、学習意欲を高める指導を実施するため、授業改善の取組を進める必要がある。</p>	<p>・外部機関と連携し、これからの社会を生き抜くための実践的な力を育成する講座等を設定する。</p> <p>・身近な課題を機動的に解決するシステムを導入する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①豊かな心と、健やかな体を育むきめ細やかな教育を推進する。</p> <p>②生徒の状況把握と個々に対応した教育相談の充実を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む学校行事を実施し、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>②校内の組織的な生徒支援体制を構築する。</p>	<p>①生徒が企画から運営まで主体的・協働的に取り組む学校行事とするため、指導や支援のあり方を検討する。</p> <p>②生徒情報の共有を図るとともに、外部機関を活用し適切な支援を進めるための体制を構築する。</p>	<p>①生徒の主体的・協働的な取組はあったか。</p> <p>②生徒情報を共有し外部機関への連携を含めた支援を実現するため、ケース会議を活用できたか。</p>	<p>① 文化祭(栄祭)は文化祭実行委員会が主体、体育祭、球技大会は体育委員会が主体、合唱祭は合唱委員会が主体で行事を開催するよう指導した。各委員会とも企画段階から積極的に取り組み、円滑な運営ができた。生徒の満足度も高く、成功を収めた。</p> <p>② 生徒情報は毎月の職員会議で共有化を図った。必要に応じてケース会議を開催し、支援内容を検討した。外部機関と連携する事案も丁寧に対処した。</p>	<p>① 企画の早期段階から生徒が主体的に取り組めるような支援をする。また、各行事の達成目標を共有し生徒・教職員が協働できる環境を構築する。</p> <p>② 生徒情報の共有については、より細かな方策を取り、確実に実行したい。ケース会議等については、開催する手順を明確化し早期に対処できるように組織化する。</p>	<p>・より多くの生徒が文化祭や体育祭、合唱祭、球技大会などの企画や運営に主体的にかかわり、達成感を持てるような指導をお願いしたい。</p>	<p>・学校行事等については、生徒が主体的に取り組む、協働して活動するような指導を継続していく必要がある。</p> <p>・生徒情報を職員が共有し、適切な指導や支援ができるような体制の強化を進めるべきである。</p>	<p>・体育祭等で生徒がより主体的に活動できるように企画内容を工夫する。</p> <p>・ケース会議をさらに活用し、能動的な生徒支援ができる体制づくりを進める。</p>

3	進路指導・支援	入学から卒業までのキャリア教育の体系化により、生徒のキャリア発達を支援し、進路指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア支援プログラムに基づき進路指導を行い、生徒の進路に対する意識向上を図る。 ② 生徒の第一希望進路の実現に向けて学習支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 模試データ等を活用し個別の指導計画を作成する。 ① 生徒の英語検定試験受検を促進する。 ② 課外の補習講座等を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別指導計画が次年次に引き継げたか。 ① 英語検定受検生徒は増加したか。 ② 課外講座への参加生徒数は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別指導計画を次年次に引き継ぐことができるよう整えた。 ② 英語技能検定試験（GTEC）を校内実施した。（18名受検） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学入試改革を見据えて個別指導計画の書式について検討する。 ② 記述問題導入・英語4技能評価や調査書の変更への対応など、大学入試改革を見据えた取組を進める。 ② 自ら未来を切り拓く人材の育成という視点から、論理的思考力・表現力を育成するための学習支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の情報をもとに生徒一人ひとりへの丁寧な進路指導をしている。保護者対象説明会の開催など保護者への情報提供も行っている。 ・生徒それぞれに、自分の将来を考えさせる指導を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体への説明だけでなく、分野別説明会などさまざまな形で進路指導を行い、生徒のキャリア意識の向上を図る取組を継続する必要がある。 ・新たな大学入試制度に対応する校内の体制を整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験を最終目的とするのではなく、生徒が自らの進路を考えることができるよう個別面談等の機会を利用して、意識づけ、動機づけを行う。
4	地域等との協働	生徒の社会参画の意欲向上に努め、保護者、地域住民との協働を推進して開かれた学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者・地域との交流を深め、本校の特色や教育活動についての理解を深めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との関わりの大切さを認識し社会に貢献する力を育成するため、生徒の地域での活動機会を増やす。 ・学校からの情報発信を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する生徒数は増加したか。 ・地域への情報発信のため、HPの更新を毎月1回以上行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の生徒数に伴い、夏季体験活動の新たな活動先の開拓や、三世代地域交流の活動種目の増加を行い、地域との連携を深めた。 ・ファミリーング部や吹奏楽部等が地域行事への参加も引き続き行った。 ・HPの更新が滞ったところがあった。学校説明会などの情報は積極的に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季体験活動や三世代地域交流会の趣旨を生かして、ボランティアや地域のシニアの活動に関わる環境を検討し、学校行事としての活動や部活動での体験を増加させたい。 ・HPの更新は指定された担当者以外でもできるように、更新の手続きを再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季体験活動や三世代地域交流会は、生徒が取り組む期間が限定的なので、地域と調整し充実させるよう検討してほしい。 ・学校のHPは保護者にとっても学校を知るための重要な情報源なので速やかに情報更新してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携事業の効果を高めるためそれぞれの行事の運営方法等を検討する必要がある。 ・生徒が地域で活動する機会を増やす取組を継続すべきである。 ・HPの記事の更新を速やかに行うべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携に関する行事を精選し、効果的に運用する。 ・業務支援員を活用しHPの更新を速やかに行う。
5	学校管理 学校運営	安全で信頼される学校づくりを目指し、指導体制・管理体制の整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備を進めるとともに防災意識の高揚を図る。 ・教育改革についての職員の共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定を変えた防災訓練を実施する。 ・教育情報を共有化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定を変えた防災訓練を実施できたか。 ・情報発信の回数は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次生の保健の授業の中で、DIG訓練を実施した。その成果を他の生徒にも伝達できる方法について検討している。 ・大学入試改革などの教育情報について、総合的学習の時間、LHRなどの場面を活用し、生徒や保護者に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒が体験できるDIG訓練の実施に向けて検討を進める。 ・教育課題についての職員の研修の機会を確保するとともに、生徒・保護者の学習の場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習環境を清浄に保つため校内美化の取組を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災意識を高める取組を継続する必要がある。 ・教育改革について保護者が理解を深める機会を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、事故防止に関する校内研修を充実させる。 ・県立高校改革の実践について理解を深めるとともに、教員の働き方改革を効率的に進める。